

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新入文学(8)
発行日	2011-12-22

〔彙報〕

平成三十二年度 大学院文学研究科

◆ 学位論文題目一覧

博士學位論文

● 日本文化専攻博士（後期）課程

氏 名	博 士 論 文 題 目
塩谷 昌弘	江藤淳の《物語》世界

修士學位論文

● 日本文化専攻修士課程

氏 名	修 士 論 文 題 目
橋本 芳恵	歌人・持統天皇
韓 紅艶	蒙疆政権下におけるモンゴル人に対する日本語教育について
安田 優子	韓国語における日本製外来語について （野球用語を中心として）

● 英米文化専攻修士課程

氏 名	修 士 論 文 題 目
中澤 慎一	史的イエス研究におけるR・ブルトマンの意義
塩濱 健児	エルンスト・トレルチの《文化史》研究とその方法
舟田 尚子	友愛協会を通してみた地域の結合

◆ 授業科目及び担当者

● 日本文化専攻博士(後期)課程

授業科目	担当教員
古代文学特殊研究Ⅰ	小野寺静子教授
古代文学特殊研究Ⅱ	小野寺静子教授
古代文学特殊研究Ⅲ	小野寺静子教授
比較文学特殊研究Ⅰ	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊研究Ⅱ	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊研究Ⅲ	テレングト・アイトル教授
日本古代中世史特殊研究Ⅰ	追塩千尋教授
日本古代中世史特殊研究Ⅱ	追塩千尋教授
日本古代中世史特殊研究Ⅲ	追塩千尋教授
仏教文化史論特殊研究Ⅰ(禅文化史論)	船岡 誠教授
仏教文化史論特殊研究Ⅱ(禅文化史論)	船岡 誠教授
仏教文化史論特殊研究Ⅲ(禅文化史論)	船岡 誠教授
近現代史特殊研究Ⅰ	郡司 淳教授
近現代史特殊研究Ⅱ	郡司 淳教授
近現代史特殊研究Ⅲ	郡司 淳教授

● 英米文化専攻博士(後期)課程

授業科目	担当教員
英米歴史文化特殊研究Ⅰ	常見信代教授
英米歴史文化特殊研究Ⅱ	常見信代教授
英米歴史文化特殊研究Ⅲ	常見信代教授
英米社会文化特殊研究Ⅰ	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊研究Ⅱ	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊研究Ⅲ	岩崎まさみ教授
欧米社会文化特殊研究Ⅰ	濱 忠雄教授
欧米社会文化特殊研究Ⅱ	濱 忠雄教授
欧米社会文化特殊研究Ⅲ	濱 忠雄教授
英米思想文化特殊研究Ⅰ	上杉 忍教授
英米思想文化特殊研究Ⅱ	上杉 忍教授
英米思想文化特殊研究Ⅲ	上杉 忍教授
欧米思想文化特殊研究Ⅰ	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊研究Ⅱ	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊研究Ⅲ	安酸敏真教授

● 日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	小野寺静子教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	小野寺静子教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	小野寺静子教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾准教授
日本文学特殊講義Ⅳ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順教授
表象文化論特殊講義	大石和久教授
日本言語文化特殊講義Ⅰ	中川かず子教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠA	中川かず子教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠB	中川かず子教授
日本言語文化特殊講義Ⅱ	菅 泰雄教授
日本言語文化特殊講義Ⅲ	徳永良次教授
日本歴史文化特殊講義Ⅰ	追塩千尋教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠA	追塩千尋教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠB	追塩千尋教授
日本歴史文化特殊講義Ⅱ	船岡 誠教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡA	船岡 誠教授

授業科目	担当教員
日本歴史文化特殊講義演習ⅡB	船岡 誠教授
日本歴史文化特殊講義Ⅲ	郡司 淳教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢA	郡司 淳教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢB	郡司 淳教授
日本宗教思想史特殊講義Ⅰ	福島栄寿 講師
日本宗教思想史特殊講義Ⅱ	早島有毅 講師
北方文化論特殊講義Ⅰ	中村英重 講師
北方文化論特殊講義Ⅱ	桑原真人 講師
アイヌ文化論特殊講義	手塚薫准教授
アジア文化論特殊講義Ⅰ	須田一弘教授
アジア文化論特殊講義Ⅱ	李俊 鎬 講師

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊講義Ⅰ	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義ⅠA 演習	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義ⅠB 演習	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義Ⅱ	姉崎洋一講師
英米歴史文化特殊講義Ⅰ	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義ⅠA 演習	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義ⅠB 演習	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義Ⅱ	上杉 忍教授
英米歴史文化特殊講義ⅡA 演習	上杉 忍教授
英米歴史文化特殊講義ⅡB 演習	上杉 忍教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅰ	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠA 演習	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠB 演習	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅱ	太田敬子講師
英米思想文化特殊講義Ⅱ	川上武志教授
英米思想文化特殊講義ⅡA 演習	川上武志教授
英米思想文化特殊講義ⅡB 演習	川上武志教授
英米思想文化特殊講義Ⅲ	瀬名波栄潤講師
英米言語文化特殊講義Ⅱ	米坂スザンヌ教授
英米言語文化特殊講義ⅡA 演習	米坂スザンヌ教授

授業科目	担当教員
英米言語文化特殊講義ⅡB 演習	米坂スザンヌ教授
欧米思想文化特殊講義Ⅰ	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊講義ⅠA 演習	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊講義ⅠB 演習	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊講義Ⅱ	桑原俊一教授
欧米思想文化特殊講義ⅡA 演習	桑原俊一教授
欧米思想文化特殊講義ⅡB 演習	桑原俊一教授

◎二〇一一年度第一回「全体ゼミ」（博士課程・中間報告）が、六月十八日（土）（13…30…14…50）に本学C30番教室において開催された。修士課程に在学する2名が、次のような題目で博士論文の構想やその一部を発表した（参加者約40人）。

塩濱健児「エルンスト・トレルチにおける歴史主義の問題——価値のアナキーの克服について——」

張 健華「在満朝鮮人の研究」

◎二〇一一年度第二回「全体ゼミ」（修士課程二年・中間報告）が、七月九日（土）（13…30…15…45）に本学D41番教室において開催された。修士課程二年に在学する4名が、次のような題目で修士論文の構想とその一部を発表した（参加者約40人）。

宋 林「日系企業における日本人と中国人の面子とコミュニケーション・スタイルについて——G・ホフステードの4次元の文化差に基づく質的調査より——」

水谷圭子「『読解』の効果的な教育法の一考察——協働学習による日本語学習者の自立性との関連で——」

陳 依汎「中国・台湾の日本語教育における敬語教育のあり方——現代日本人「敬意表現」使用実態を踏まえて——」

頼 怡瑄「日本統治下台湾の文化受容——皇民化運動期を中心に——」

◎二〇一一年度第三回「全体ゼミ」（修士課程一年・中間報告）が、十一月五日（土）（10…00…17…30）に本学C31番教室において開催された。修士課程一年に在学する12名が、次のような題目で修士論文の構想を発表した（参加者約40人）。

齋藤千代子「遠藤周作の文学とキリスト教に関する一考察——『深い河』における美津子の信心に着目して——」

大原智明「夏目漱石『二百十日』についての一考察——内平淳一『森敦『われ逝くものごとく』』についての分析——」

金 孝善「日本における韓国語学習者の自律学習に関する意識——大学生及び一般人学習者のビリーフ調査——」

楊 紅敏「日本語の感謝・謝罪表現の研究——使用実態と日本語教育への示唆——」

李 涵明「中国人学習者の授受表現使用状況に関する研究」

小玉知輝「怨霊研究の一視点——祟りの起源——『日本書紀』と崇信——仏神の心に崇れり——に至る言説史を讀んで——」

岩佐有子「真言立川流の思想的意義——内田幸子『太宰師大伴卿讃酒歌十三首』について——」

柴田千裕「現代の日本人の持つ死への不浄観について——山本侑奈『九鬼周造研究——『いき』の構造』を中心として——」

藤川清則「アイヌ民族の文化と観光」

●『年報 新人文文学』第8号をお届けします。今号には、教員四名と博士（後期）課程に在学する院生一名の論文五篇を掲載しています。このうち二篇は、今年度より文学研究科のスタッフに加わった柴田崇氏と佐藤貴史氏の手になるものです。若い両氏の存在が、今後文学研究科に新風を吹き込んでくれることを期待しております。

●従来、『年報 新人文文学』は、大学をはじめとした関係機関に対する寄贈分を除けば、もっぱら文学研究科に所属する現職の教員と院生を中心に配布されてきました。したがって退職者や院生OBは、本誌を手に入れることが難しい状況にあります。しかし今後は、これらの方々に對しても、ご本人の希望があれば、可能な限り本誌を寄贈する方向で検討していきたいと考えております。それは、投稿者の確保という現実的な要請もさることながら、学部教員の学会組織である人文学会とも連携しながら、北海学園大学における人文文学の伝統を創造し、かつその継承を図りたいとの思いがあるからです。

●前号の編集後記でお知らせしましたように、今号から和文・縦書きを原則としつつ、和文以外の言語あるいは和文でも横書きの投稿を認めることにしました。その結果、早くもこれに該当する論文が投稿されました。英文学が専門の川上武志氏の論文がそれです。編集にあたっては、従来の体裁を極力変えないように配慮したつもりです。ご意見・ご批判を賜りたく存じます。

●本年度をもって郡司が編集委員を退くことになりました。テレングト・アイトル氏の後任として第6号から編集にかかわってまいりましたが、幸い刊行スケジュールに遅れることもなく、大任を果たすことができました。これも偏に投稿者をはじめとする文学研究科の皆様のお力添えによるものと感謝申し上げる次第です。「新しい人文文学」を創成する場として『年報 新人文文学』が今後益々発展していくことを祈りつつ……。

（岩崎まさみ・郡司 淳）

『年報 新人文学』 投稿規定

- 一、『年報 新人文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。
- 二、投稿原稿の著者は、当人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
- 三、原稿は、原則、日本語とし、縦書き、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。
 - ①原著論文で未発表のもの、四〇〇字詰原稿用紙五〇頁程度。
 - ②研究ノート・資料・報告など、四〇〇字詰原稿用紙三〇頁程度。
 - ③書評など、四〇〇字詰原稿用紙一〇頁程度。
 - ④その他、編集委員会が必要と認めたもの。
- 四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文学』編集委員会